キラリ輝く 第13回

対　談

誰もがハンドルを握れる未来をめざして



阿南自動車学校
副管理者・総務部長
野﨑（のざき）　秀一（しゅういち）さん



阿南市で活躍する「キラリ輝く」個人や団体の皆さんと市長が対談し、その魅力をお伝えします!

市　長　平成11年に指導員として働かれ、平成31年頃に半身まひのある方が入校されたのをきっかけに身体障がい者の方への教習を始められたとお聞きしました。指導員として働き始めたきっかけや、教習で苦労されたことは何ですか。

野　﨑　自分としてはごく自然に普通のこととして向き合っています。困っている半身まひのある方が入校され「免許を取れませんか」と相談に来られました。その時まで県身体障害者連合会などが所有する左足アクセル・ブレーキ車や手動装置付き車両の存在を知らなかったため、そうした車があることに大変感動しました。

　その車をお借りして懸命に練習しました。左半身まひのある方が無事に免許を取得でき、非常に大きな手応えを感じました。それまで約19年間、健常者の方へ教えてきた経験を障がいのある方に教えることが本当に楽しく、やりがいを感じました。特別な意識ではなく、運転したいという思いを持った方がいて、それに応えられる車があったというシンプルな巡り合わせです。

市　長　サポートカーは障がいの状況に応じてさまざまな装備が必要になると思います。両足まひや下半身まひのある方向けの手動式装置の指導も行っているのでしょうか。また、独自の道具開発もされているとお聞きしています。

野　﨑　手動装置付き車両の指導も行っています。これは、車いす利用の方に多く、手でブレーキやアクセルを操作し、右手でハンドルを操作する方式です。

　市販の装置はありますが、教習生の体格や身体の動きは異なります。そのため、メーカーの装置に合わせた補助具を自作しています。

　例えば、まひには静止して動かない「静」だけでなく、不随意に活発に動いてしまう「動」があることに気づきました。その動いてしまう身体をどう固定するかを考え、結束バンドなどを工夫して固定具を作成しました。

市　長　今までたくさんの方を免許取得に導いてこられたと思いますが、一番思い出に残っていることはありますか。

野　﨑　私が教えて免許を取られた方が、家族や友人を乗せて笑顔で運転している姿を見る瞬間が一番うれしいです。

市　長　「阿南市」の好きなところや魅力だと思うところを教えてください。

野　﨑　海が近く非常にきれいな街で、真っ青な青空のように心が広く温かい人が多いところが一番の魅力です。

市　長　これからどのように「キラリ」輝いていきたいですか。

野　﨑　どのような方が来られても決して拒否せず、困っている人がいれば手を差し伸べたいです。また、これまでの実践データを基に直感的に理解できる本を制作し、利益目的ではなく、全国で運転に困っている方の力になれるよう届けていきたいです。

市　長　全国で必要とされ、多くの方の助けになる素晴らしい取り組みだと思います。本の完成を心から楽しみにしています。

※対談の詳細は、市ホームページに掲載しています。

問い合わせ
秘書広報課
☎22-1110

「わがまち創生事業」ふるさとづくり基金助成金

この事業は、本市の活性化および地域の振興を推進する事業または若人の海外における視察研修を助成する事業です。（**阿南市総合計画 2025▶2028 基本政策6に基づく事業**）

対象事業　次の2種類があります。

▶市の活性化および地域の振興につながる営利を目的としない市民の自発的な活動（地域イベント・文化活動・スポーツ行事など）への助成

▶海外視察研修（本市に2年以上在住し年齢が満10歳から49歳までの方で、視察研修の体験が地域づくりの実践につながると考えられる方）への助成

助成金の額　予算の範囲内において食糧費を除く事業費の3分の2以内

申込方法および交付の決定

交付申請書（企画政策課に備え付け）に必要事項を記入の上、企画政策課へ提出してください。申請内容の審査および助成金の交付額などは基金運営委員会の審議を経て決定します。

申請書は市ホームページでもダウンロードできます。

受付期限　12月25日㈭

市ホームページ▶
https://www.city.anan.tokushima.jp/docs/2026032700013/

問い合わせ　企画政策課　☎22-3429